

イワカガミ *Schizocodon soldanelloides* Siebold et Zucc.

【評価理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 14。愛知県では希少な温帯性の植物で、県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く地上をはい、先端に数枚の葉を束生する。葉は長い柄があり、葉身は円形、長さ幅ともに 3~6cm、辺縁にはとがった鋸歯がある。花期は 4~7 月、葉の間から高さ 8~15cm の花茎を伸ばし、先端に 3~10 個の花をつける。花は紅紫色で直径 1~1.5cm、花冠は漏斗形で 5 裂し、辺縁は細かく裂ける。果実は球形で、直径 3~4mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 37265, 1992-5-23)、4 津具 (小林 56832, 1995-5-21)。

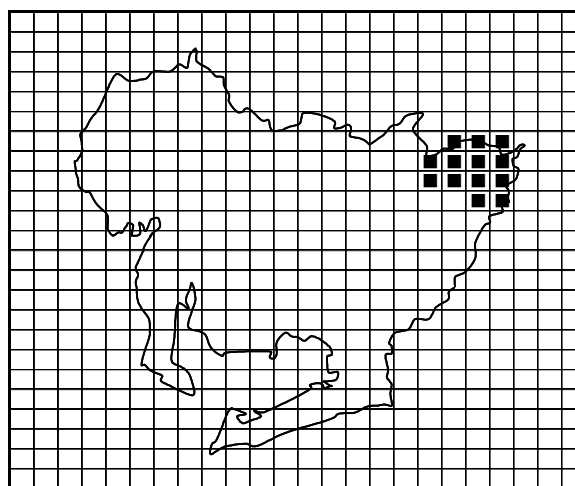
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の山地の岩場や高山に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩場や高山の草地に生育する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【現在の生育状況／減少の要因】

小さな岩場に少数株が生育しているだけで、しかも「ほとんどが葉柄のみで食害されていた。……ニホンカモシカによると推定された。このままでは数年のうちに衰退・絶滅する可能性が高い」と報告されている (小林 2006)。近くを遊歩道が通っているため、園芸目的で採取されるおそれもある。

【保全上の留意点】

個体数調整など、草食獣の増加に対する対策が必要である。

【特記事項】

葉の先端が丸く、辺縁の鋸歯が小さいことが特徴である。愛知県のイワカガミ類は大部分がヤマイワカガミ系のものであるが、変異が大きく、分類学的な再検討が必要である。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.61. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本 I p.240, 平草本 III p.1, 平新版 4 p.214, SOS 旧版 p.67.